

廣隆寺

国宝
 弥勒菩薩半跏思惟像 弥勒菩薩半跏思惟像(宝髻)
 十二神将十二軀 阿弥陀如来坐像 不空羼索觀音菩薩立像 十二面千手觀音立像 廣隆寺縁起資財帳
 廣隆寺資財交替実録帳 桂宮院本堂 (以上二十点)

重要文化財
 千手觀音坐像 毘沙門天立像 吉祥天立像 如意輪觀音半跏像 不動明王坐像 藥師如来立像 藏王権現像 阿弥陀如来立像 聖觀音立像 吉祥天立像 埋木地藏立像 日光菩薩立像 月光菩薩立像 弥勒菩薩坐像 菩薩立像 吉祥天立像 大日如来坐像 藏王権現像 吉祥天立像 聖德太子孝養像 增長天立像 持国天立像 広目天立像 五髻文殊菩薩坐像 多聞天立像 秦河勝像 同夫人像 吉祥天立像 大日如来坐像 地藏菩薩坐像 虚空藏菩薩坐像 能惠法師絵詞 十二天画像十二幅 准胝仏母画像 三千仏図絵 鉄鐘 講堂 (以上四十八点)



廣隆寺 参拝

京都市右京区太秦蜂岡町 TEL (075) 861-1461

The Kōryū-ji Temple

The Kōryū-ji Temple, belonging to the Shingon sect of Buddhism, is the oldest temple in Yamashiro, Kyoto. It is said to have been founded in 603 and is one of seven large temples in Japan constructed by prince Shōtoku (573–621).

The present lecture hall (the Kōdō) is the oldest building in Kyoto, constructed in 1165. Enshrined in the lecture hall are a huge, 8-foot high, seated wooden image of the Amida Nyorai (a national treasure), a statue of the Jizō-Basatsu (an important cultural property) to the right of the Amida Nyorai and a statue of the Kokūzō-Bosatsu (an important cultural property) to the left. Behind the lecture hall is the Jōgūōin (the main hall), where a wooden statue, said by tradition to be of prince Shōtoku at about 33 years of age, is enshrined as the principal image. The present Jōgūōin building was reconstructed in 1720.

To the north of the precincts of the temple is the Keigūin (a national treasure). This is an octagonal one-story building measuring 7.5 feet on each side and roofed with Japanese cypress bark. This building of historical interest was constructed in 1251 and is usually called the "Hakkakudō (the octagonal hall)" by local residents.

Behind the Jōgūōin is the Shin-Reihōden (the treasure hall) where a variety of valuable statues of the Buddha are stored including one famous wooden statue of the "Miroku-Bosatsu" dating from the Asuka Period (552–645). It was designated as a national treasure in 1951, becoming the first designated national treasure in Japan.

고류지(廣隆寺)

고류지(廣隆寺) 절은 진언종의 사원으로, 스이코 천황 11년(603년)에 쇼토쿠 태자가 건립했다고 전해 내려오는 야마시로(교토) 지방에서 가장 오래된 사원이며, 쇼토쿠 태자가 건립한 일본 7대 사원 중의 하나입니다.

1165년에 건립된 「강당」은 교토에서 가장 오래된 건축물입니다. 강당에는 높이 약 2m 40cm에 이르는 아미타여래상(국보)을 중심으로, 그 오른쪽에는 지장보살상(중요문화재), 왼쪽으로는 허공장보살상(중요문화재) 등이 안치되어 있습니다. 강당의 뒤편에는 대웅전에 해당하는 조구오인(上宮王院)이 위치하고 있으며, 본존상은 33세 무렵의 쇼토쿠 태자(573–621)상으로 전해 내려오는 목조 조각상이 안치되어 있습니다. 현재의 건물은 1720년에 재건되었습니다.

경내의 북쪽에는 게이큐인(桂宮院·국보)이 위치하고 있습니다. 이 건물은 1251년에 건립되었습니다. 게이큐인은 1층의 팔각원당 건조물로 1변의 길이는 약 2m 30cm, 지붕은 노송나무 껍질로 이어져 있습니다. 역사적으로 중요한 건축물로, 일반적으로 핫카쿠도(八角堂)라고 불리고 있습니다.

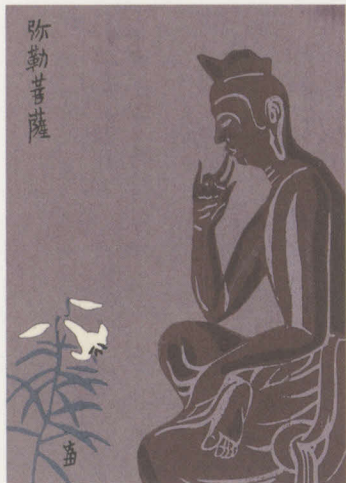
또한 조구오인의 뒤편에는 신레이호덴(新靈寶殿)이 위치하고 있으며, 이 곳에는 다수의 귀중한 불상이 안치 되고 있습니다. 그 중의 하나가 아스카시대(552–645)에 만들어진 유명한 목조 미륵보살상으로, 1951년에 국보 제1호로 지정되었습니다.

国宝第一号

弥勒菩薩半跏思惟像

弥勒菩薩は、須弥山の弥勒浄土といわれている兜率天にて、菩薩の行につとめられ、諸天に説法し、お釈迦さまにかわってすべての悩み、苦しみをお救いくださり、正しい道へとお導き下さる慈悲の仏さまです。

この半跏思惟像は、「一切衆生をいかにして救おうかと考えている」お姿を表しています。



広隆寺沿革

広隆寺は推古天皇十一年(六〇三)に建立された山城最古の寺院であり、聖德太子建立の日本七大大寺の一つである。この寺の名称は、古くは峰岡寺、秦公寺、太秦寺などと言われたが、今日では一般に広隆寺と呼ばれている。

広隆寺の成立に就いて、日本書紀によると秦河勝が聖德太子から仏像を賜りそれを御本尊として建立したとあり、その御本尊が現存する弥勒菩薩であることが廣隆寺資財交替実録帳を見ると明らかである。

秦氏族が大勢で日本に渡来したのは日本書紀によると第十五代応神天皇十六年で、主は養蚕機織の業であり、その他に大陸や半島の先進文化を我が国に輸入することにも努め農耕、醸酒等、当時の地方産業発達に貢献していた。

我が国に大陸文化を移し産業と文化の発達の源流・経済の中心ともなった太秦の、この広隆寺は、衆生済度の道の探求、仏法への絶対的な帰依、そして、和を似て貫しと為す、平和な世界をめざされた慈悲の権化である聖德太子の、理想の実現に尽力した秦氏の功業を伝える最も重要な遺跡であり、信仰と芸術の美しい調和と民族の貴い融和協調とを如実に語る日本文化の一大宝庫である。

広隆寺は弘仁九年(八一八)に火災に遭ったが、秦氏出身で弘法大師の弟子である道昌僧都によって再興、更に久安六年(一一五〇)にも炎上し、復興された。このように、度々の災禍にも拘わらず、多くの仏像が現在も護持されている事を思うと、これらの仏像がいかに強い信仰の対象であるかが、うかがわれる。

講堂(重要文化財)

講堂は永万元年(一一六五)に再建された京洛最古の建物で、俗に赤堂という。中央に西方極楽浄土で説法をされている印を結ぶ阿弥陀如来坐像(国宝)、地藏菩薩坐像(重文)、虚空蔵菩薩坐像(重文)を祀る。

太秦殿

太秦明神、漢織女、呉秦女を祀る。

上宮王院太子殿

享保十五年(一七三〇)に再建された入母屋造の堂。本尊に聖德太子像を祀る。この太子尊像には、太子の偉徳功業を景仰せられる歴代天皇が、即位大札に御着用の黄櫨染御袍の御束帯が即位後贈進されて各天皇御一代を通じて御召しになるならわしである。毎年十二月二十二日の聖德太子御火焚祭に特別開扉。

新霊宝殿

飛鳥時代の弥勒菩薩半跏思惟像(国宝)をはじめ、天平・弘仁・貞観・藤原鎌倉と各時代の仏像を祀る。

桂宮院本堂(国宝) 別名八角円堂(非公開)

聖德太子が楓野別宮を起こされたところと伝えられ現在は広隆寺の奥の院と称される。現在の建物は建長三年(一二五二)に中観上人澄禅により再建された。

地藏堂

平安時代に我国繁栄の為に弘法大師が諸人安産、子孫繁栄の御誓願に基き御製作になった腹帯地藏尊である。

薬師堂

阿弥陀三尊立像 薬師如来立像 不動明王 弘法大師 理源大師 道昌僧都を祀る。